『注文の多い料理店』新刊案内

宮沢賢治

イーハトヴは一つの地名である。しいて、その地点を求（もと）むるならば、それは、大小クラウスたちの耕（たがや）していた、野原（のはら）や、少女アリスがたどった鏡（かがみ）の国と同じ世界（せかい）の中、テパーンタール砂漠（さばく）のはるかな北東、イヴン王国の遠い東と考えられる。

じつにこれは著者の心象中に、このような状景（じょうけい）をもって実在（じつざい）したドリームランドとしての日本岩手県である。

そこでは、あらゆることが可能（かのう）である。人は一瞬（いっしゅん）にして氷雲（ひょううん）の上に飛躍（ひやく）し大循環（だいじゅんかん）の風を従（したが）えて北に旅（たび）することもあれば、赤い花杯（はなさかずき）の下を行く蟻（あり）と語（かた）ることもできる。

罪(つみ)や、かなしみでさえそこでは聖(きよ)くきれいにかがやいている。

深(ふか)い椈(ママ)の森や、風や影(かげ)、肉之草(ママ)や、不思議(ふしぎ)な都会(とかい)、ベーリング市まで続(つづ)く電柱(でんちゅう)の列(れつ)、それはまことにあやしくも楽しい国土である。この童話集の一列は実に作者の心象スケッチの一部(いちぶ)である。それは少年少女期(き)の終(おわ)りごろから、アドレッセンス中葉(ちゅうよう)に対(たい)する一つの文学としての形式(けいしき)をとっている。

この見地からその特色を数えるならば次の諸点に帰する。

一　これは正しいものの種子(しゅし)を有(ゆう)し、その美(うつく)しい

発芽を待つものである。しかもけっして既成の疲れた宗教や、道徳の残滓を、色あせた仮面によって純真な心意の所有者たちに欺き与えんとするものではない。

二　これらは新しい、よりよい世界の構成材料を提供しようとはする。けれどもそれは全く、作者に未知な絶えざる驚異に値する世界自身の発展であって、けっして畸形に捏ねあげられた煤色のユートピアではない。

三　これらはけっして偽でも仮空（ママ）でも窃盗でもない。

多少の再度の内省と分析とはあっても、たしかにこのとおりその時心象の中に現われたものである。ゆえにそれは、どんなに馬鹿げていても、難解でも必ず心の深部において万人の共通である。卑怯な成人たちに畢竟不可解なだけである。

四

これは田園の新鮮な産物である。われらは田園の風と光の中からつややかな果実や、青い蔬菜といっしょにこれらの心象スケッチを世間に提供するものである。

注文の多い料理店はその十二巻のセリーズの中

の第一冊でまずその古風な童話としての形式と地方色［＃「地方色」は底本では「地方名」］とをもって類集したものであって次の九編からなる。

目次と……**その説明**

（中略、ここに「注文の多い料理店」の中扉のカットを挿入してある）

1　**どんぐりと山猫**

山猫拝と書いたおかしな葉書が来たので、こどもが山の風の中へ出かけて行くはなし。必ず比較をされなければならないいまの学童たちの

内奥(ないおう)からの反響(はんきょう)です。

2　**狼森と笊森、盗森**

人と森との原始的(げんしてき)な交渉(こうしょう)で、自然(しぜん)の順違二面(じゅんいにめん)が農民に与(あた)えた永(なが)い間の印象(いんしょう)です。森が子供(こども)らや農具(のうぐ)をかくすたびに、みんなは「探(さが)しに行くぞお」と叫(さけ)び、森は「来(こ)お」と答えました。

3　**鳥の北斗七星**

戦(たたか)うものの内的感情(ないてきかんじょう)です。

4　**注文の多い料理店**

二人の青年紳士(しんし)が猟(りょう)に出て路(みち)を迷(まよ)い、「注文(ちゅうもん)の多い料理店(りょうりてん)」にはいり、その途方(とほう)もない

経営者からかえって注文されていたはなし。糧に乏しい村のこどもらが、都会文明と放恣な階級とに対するやむにやまれない反感です。

5 水仙月の四日

赤い毛布を被ぎ、「カリメラ」の銅鍋や青い焔を考えながら雪の高原を歩いていたこどもと、「雪婆ンゴ」や雪狼、雪童子とのものがたり。

6 山男の四月

四月のかれ草の中にねころんだ山男の夢です。烏の北斗七星といっしょに、一つの小さなこころの種子を有ちます。

7

かしわばやしの夜

桃色の大きな月はだんだん小さく青じろくなり、
かしわはみんなざわざわ言い、画描きは自分の
靴の中に鉛筆を削って変なメタルの歌をうたう、
たのしい「夏の踊りの第三夜」です。

8

月夜のでんしんばしら

うろこぐもと鉛色の月光、九月のイーハトヴ
の鉄道線路の内想です。

9

鹿踊りのはじまり

まだ剖れない巨きな愛の感情です。すすきの
花の向い火や、きらめく赤褐の樹立のなかに、

鹿が無心に遊んでいます。ひとは自分と鹿との区別を忘れ、いっしょに踊ろうとさえします。

底本：「注文の多い料理店」角川文庫、角川書店
1996（平成8）年6月25日改訂新版発行
1997（平成9）年5月25日改訂4版発行
※「（中略、～）」は編集者による注記です。創作的表現にはあたらないと判断し、底本通りとしました。
※底本の「地方名」を「地方色」に改めるにあたっては「宮沢賢治全集8」（ちくま文庫、1986）、「注文の多い料理店」（新潮文庫、1990）を参照しました。
※傍点は原文（初版本刊行時の広告ちらし）で赤刷りされた文字を表します。
入力：土屋隆

校正：noriko saito
２００５年２月21日作成
２００５年５月21日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。